

帯広市中小企業振興協議会 経営基盤・人材部会(第8回)

と き:平成20年1月29日(火) 14:00～

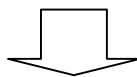
ところ:帯広市役所 3階 全員協議会室

1. 開 会 (全体司会:運営責任者:波岡調整監)
2. 部会長挨拶 (部会長 曾根 一)
3. アドバイザー出席 (株)ヒューマン・キャピタル・マネジメント 鈴木宏一郎氏)
4. 議事(議事進行 阿部委員)
 - (1)企業の人材確保や求職者とのマッチング支援
 - (2)商店街におけるホスピタリティの向上策について
 - (3)第9回部会の開催日程の確認(2月27日(水)13:30～)
 - (4)第10回部会の開催日程について(調整)
 - (5)その他
5. 閉 会

企業の人材確保や求職者とのマッチング支援

部会における意見等

- 総合計画の中でも、人材確保や雇用対策について様々な施策が展開されているが、末端の人たちが本当に役立つというレベルまで、細かくフォローができていない。
- 子育ての落ち着いた専業主婦が働きたいと思っても、企業側が提示する職種や勤務時間などの条件とマッチングしない場合が多い
- 行政の役割は、一企業をなんとかするのではなく、帯広市全体の産業を視野に入れた労働環境の整備が必要。
- 地域として、高齢者が活躍できる場、持っている能力を十分に発揮できる場を提供することが必要。
- 人事の情報について企業間で意見交換できる場を設定し、企業間の人材流動化を図る。
- 従業員にボーナスを支払えなかったり、リストラを実施せざるを得ない中小企業が増えてきており、企業内の雰囲気や社会全体の雰囲気が悪化している。
- 売り上げを増やすためには、単価を上げることが難しいのであれば数量つまり頭数(人口)を増やすしかない。全国的にも、知識、経験、資産を有している団塊の世代を奪い合う現象が発生している。帯広市としても、金融機関、同友会、税理士会等と協力して、地元出身者(ゆかりのある人)のデータベースを構築する必要がある。このデータベースにより、登録した人から知識や経験、人的ネットワークを提供してもらい、例えば、企業誘致など地域の活性化に役立てる。
- 一芸に秀でた高齢者に対する働き甲斐、生き甲斐を提供するために、地域経済活性化という視点からデータベースを構築する必要がある。
- 再雇用者に働き甲斐のある職場の提供。産学官金連携によるシーズとニーズのマッチング
- 中小企業が人材を募集する際、求める技術や能力を備えた人が地元にはいない場合がある。東京事務所などを活用して、帯広十勝を越えた人材の募集が可能ではないか。
- 特許取得、技能、資格を持つ人材が埋もれている。地域の資源と人材を発掘
- 医療・福祉は人が財産
- 再雇用者に働き甲斐のある職場提供が必要。 ○熟年・高齢者の活躍の場創出。



今後の議論の方向性 (案)

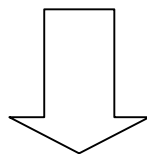
再就職支援システム(ジョブジョブとかち)により、求職、求人側ともに人材確保の面で一定の成果を上げているが、さらにUターンを希望する者や移住等の人材も含め、適材適所による人材確保が重要と考えられ、行政や企業としても今後も「労働市場のミスマッチ」を減らし、人材確保のためのさらなる効率的な方法が必要。

- 「ジョブジョブとかち」のさらなるシステムの充実強化には何が必要か。
- 新規卒者対策について、企業サイドが求めることは何か。
- U・Iターン労働者等による、高度な専門性をもつ多様な人材の確保策は。

商店街におけるホスピタリティの向上策について

部会における意見等

- 高齢者下宿エバーハウス“菜の花”は、“まちなか住まい”というのがコンセプトにあり、まちなかに人々の生活を取り戻さなければ、商店街の復活はない。
- 帯広以外から帯広に向かわせる魅力づくりが必要。帯広以外の人を帯広に集めて中心街を活性化させる。買い物だけではなくて、文化的好奇心をくすぐりながら、いろいろな人が集まれるようなまち望ましい。
- 地域のまちづくりにおいて、ホスピタリティ、おもてなしの気持ちを持つということは大事である。
- 商品の質、サービスの質を向上させると共に、人の質を上げていくことが必要。
- 帯広には自分独自のやり方を押し通してしまうような接客をする店舗が多い。また、マニュアルを超えたサービスが提供できない。いろいろなお店を見て良いところを自分のお店に取り入れる姿勢が必要。



今後の議論の方向性（案）

- 商店街のホスピタリティ（おもてなしの心・サービス・環境・快適性・文化など）を向上させるための講師の派遣やワークショップ等の実施
- 商店街におけるホスピタリティを活かした取組みの検討。
- 一人暮らしのお年寄りマップを作成、町内会でホスピタリティを実践した人を表彰するミスター&ミスホスピタリティの催しやホスピタリティ写真展、映画鑑賞、講演会を実施。
- 商店の設置物には、植物に代表される「挨拶の装置」、照明・ベンチ・のれん等の「迎客の装置」、屋号看板・メニュー・料金表などの「集客の装置」があり、これらのもの（三種の神器）は見る人（客）にさまざまなメッセージを与える役割を果たす。街も道も、こうしたホスピタリティ表現を高め、いかに演出し、楽しく見せるか。手づくりの『もてなし』表現が重要である。
- まちなか歩行者天国は、市民に快適に過ごせる空間を提供し、街なかの賑わいと地域コミュニティの再生を図ることを目的としているが、商店街の売上げにはあまり繋がっていない。